

【本社】〒063-0849 札幌市西区八軒9条西10丁目4番28号
 TEL 011-641-7507 FAX 011-644-9209 URL <http://www.hokudo.co.jp>
 【洞爺ラボ】〒049-5613 虻田郡洞爺湖町清水245番地4
 TEL 0142-83-3748 FAX 0142-83-3982

バイオ総合受託と独創性の高い動物試験に取り組む

ジャガイモウイルスN系統 ELISAキット



ジャガイモウイルスN系統 イムノクロマトキット

会社データ

設立 昭和49年
 代表者 永井 雅晴
 資本金 75,000千円
 従業員数 33名

事業内容

1. 研究用試薬の製造販売、イムノアッセイ構築
2. 医薬品・医療機器などの非臨床試験の受託
3. 実験動物・飼料・施設機器の販売、動物飼育の受託、施設・設備の保守点検・消毒・殺菌

ホクドーは、「使える」抗体作製から研究支援業務の幅を拡大し、ELISA測定受託、ELISAキット・イムノクロマトキットの構築およびOEM製品の製造まで、その業務は広範囲にわたる。また、大学などとの共同研究にも積極的に取り組み、製品化を実現するなど成果を上げている。

動物試験分野においては、豊富な経験とノウハウに基づき、独創性の高い試験から一般の薬理・毒性試験、さらにレンタルラボまで幅広い受託を積極的に行っている。抗体作製・キット構築・OEM製造など一連の業務を単独企業で受託している例は珍しく、バイオ総合受託サービス企業の位置づけを確立しつつある。動物実験においては家畜ブタを使用する実験を得意としているほか、「脊髄損傷モデル」や「COPD（慢性閉塞性肺疾患）モデル」動物の作製をはじめ、全国的にも珍しい実験に取り組んでいる。特に現在は、COPDモデル動物の開発と実験に力を入れている。

バイオ総合受託と共同開発

ホクドーは、抗体作製・キット構築などの共同開発から製品の小ロット製造まで一貫した支援業務を受託している。公設農業試験場との共同開発から生まれた「ジャガイモウイルスN系統測定キット」は、ELISAキットのほか、イムノクロマトキットも製造している。イムノクロマトキットは、検出機器や専門知識を必要とせず、種イモ生産者が圃場でウイルスを測定することが可能なため、その利便性が大きく高まることが期待できる。

一方で、大手食品メーカーのELISAキットの製造をOEMで受託するなど、その技術の信頼性も高い。このキットは、アレルギー物質検出キットであり、数年の開発期間を経て販売に至っている。医療分野においても大学や行政機関などとの共同研究に積極的に参加している。ワクチン療法が有効ながん患者を見分けられる研究用試薬（抗HLAクラスI抗体）はその一例だ。

このようにホクドーは、幅広い産業の研究開発に寄与しているとともに、産学官連携にも積極的に取り組み、着実に製品化に結び付けている。ベンチャー企業との関係も深く、最先端を目指す研究開発において心強い存在となっている。

独創性の高い動物試験を実施

ホクドーは、非臨床試験のあらゆるニーズに対応しており、一般の薬理・毒性試験のほか、他社に例を見ない独創性の高い動物試験を受託している。動物種としては「家畜ブタ」、モデル動物としては「脊髄損傷モデル」と「COPDモデル」とがあげられる。家畜ブタでは、ヒトに近い大きさで臓器・皮膚・関節の試験が可能のため、試験用途も幅広い。脊髄損傷モデルは、MASCIS-インパクターを使用しており、均一的なモデル作製の技術を誇る。

COPDモデル

COPD（慢性閉塞性肺疾患）モデルは、ホクドーと業務提携企業とが共同開発を行っている。現在、日本国内で唯一であり、ホクドーでのモデル作製は、患者数が増加している慢性閉塞性肺疾患の研究・治療へ大きな貢献が期待されている。

ホクドーはこのように独創的な試験を積極的に取り入れている。また、業務提携を通じて医薬品開発分野におけるシーズ発掘から動物試験および治験までを連携して受託できる体制を構築している。